

『邦訳 日葡辞書』 ⑪

わが国中世の児童文化史研究によせて

M・M・M

S字で始まる語

(承前)

スキ、ク (梳き、く)

(例) カミヲ スク (髪を梳く) 虱を取り除くために子供の髪を梳く。

ステゴ (捨子)

捨てられた幼児。

T字で始まる語

タクタイ (托胎・宅胎)

ヤドリ ハラム (宅り胎む) 託身する、すなわち、ある人の胎内で人間の形をとる。一般に神や仏について言う場合に用いられるが、われらの主キリストに適用することがで

きる。

タイナイ (胎内)

ハラノ ウチ (腹の内) 腹の中。

(例) ハハノ タイナイニ ヤドル (母の胎内に宿る) 母親の腹中に在る、あるいは、居る。

タイランシツケ (胎卵湿化)

動物の生まれる四つの生まれ方。

1、タイシヨウ (胎生) そのもの本来の姿形をして、腹から生まれ出る、人間や動物の出生。2、ランシヨウ (卵生) 鳥や魚などのように、卵から生まれる動物の出生。

3、シッシヨウ (湿生) 湿気、または、腐敗から発生する動物の出生。4、カンシヨウ (化生) 水中に投げ込んだ頭髮とか、山芋などから蛇が生ずるように、変身(化成)によつて生ずる動物の出生。

タイシ (太子)

国王の子息。

タイシヨウ (胎生)

そのもの本来の姿形をして、腹から生まれ出る、人間や動物の出生。↓タイランシツケ、シシヨウ (四生)

タナマリ、ル、ツタ (たなまり、る、った)

母親の胎内に赤児が形成される。

タネ (種・胤)

種子。

(例) タネガ カワル (胤が変る) 二人、あるいは、それ以上の子供が、母親は同じで父親が違っている。

タンジャウ (誕生)

ウマレ、ルル (生まれ、るる) 出生。

(例) タンジャウ スル (誕生する) 生まれる、あるいは、分娩する。

タンジャウニチ (誕生日)

ウマルル ヒ (生まるる日) 出生の日。

タンジャウヤ (誕生屋)

出生の場所、または、ある人が分娩をした建物。

タノモシ (憑母子)

日本で行なわれる、仲間うちの契約の仕方的一种。また、損害を受けた人に、大勢の人々が貸付をしてやる、貸付法

タラチメ (垂乳女)

の一種。

詩歌語。ハハ (母) に同じ。母。

タラチネ (垂乳根)

詩歌語。ヲヤ (親) に同じ。父母。

タラチヲ (垂乳男)

チチ (父) に同じ。父。

タワブレ、ルル、レタ (戯れ、るる、れた)

ひやかし、からかう、または、むつまじく遊びたわむれる、など。

タシヤウ (多生)

ゼンチョ (異教徒) が想像しているように、この世界に繰り返し生まれること。

(例) タシヤウノ キエン (多生の機縁) 他の生における結びつき、あるいは、つながり。タシヤウ コウゴウ

(多生曠劫) 多くの代を重ねて生まれること、あるいは、非常に長い時間にわたって血統が続くこと。↓キエン

(機縁)

タヤシ、ス、イタ (絶やし、す、いた)

血統などを中絶させる、あるいは、中断させる。

(例) シンソノ タヤス (子孫を絶やす) 血統、あるいは、ある宗派の分派を中絶させる、または、断絶させる。

タエ、ユル、エタ (絶え、ゆる、えた)

全くなくなる、中絶する、など。

(例) アトガ タユル (跡が絶ゆる) 嗣子や後継者がな

くなる。

タツサワリ、ル、ツタ（携はり、る、つた）

ある事に従事する、あるいは、手を取られる。

(例) ガクモンニ タズサワル（学文に携はる）勉学に専念する。

ツボネ（局）

ある主君の邸内の奥向き〔大奥〕を治める頭立った婦人。

ツボネ（局）

ある一人の婦人の住む、仕切られた房、すなわち部屋。また、婦人たちの居所、あるいは、寢室の意にも用いられる。

ツブテ（磔）

石を投げること。

(例) ムカイ ツブテヲ スル（向磔をする）互いに石を投げ合う勝負〔石合戦〕をする。

ツカイイレ、ルル（使ひ入れ、るる）

自分の使う者どもとか下男とかを、よく教え込み、教育する。

ツクリニワ（造園）

たくさんの小さな木や花や、またそれに類した物で人工的に造り整えた所。

ツクエ（机）

物書き台。

ツガイゴモノ（番小者）

揃いの仕着せを着て、馬とか輿とかの先に立って歩く二人の召使。

ツギ、グ、イダ（継ぎ、ぐ、いだ）

(例) アトヲ ツグ（跡を継ぐ）家を継ぐ、または、首長とか師匠とかなどの地位を継承する。

ツマ（妻・夫）

妻、すなわち結婚している婦人。また上記ほど正しい言い方ではないが、夫、すなわち、結婚している男子の意。

ツマブクロまたはコブクロ（つま袋または小袋）

婦人が、針などのような、いろいろな物を入れる小さい袋。

ツママレ（撮まれ）

馬鹿者、あるいは、愚か者、召使などをけなすのに言う言葉。

ツマミグイ（撮み食ひ）

食いしん坊などが、何かちょっとした物をこっそりとつまんで、あちらこちらで食うこと。

ツノリ、ル、ツタ（募り、る、つた）

増大する、または、柔らかで弱々しかった物が、強くなり、固くなる。

(例) カノ ワカイ ヒトハ イカウ ツノッタ（かの

若い人はいかう募った）あの若者は、なんと成長して雄々しくたくましくなったことか、などの意。

ツレ、ルル、レタ（連れ、るる、れた）

道連れになつて行く、または、連れて行く。

（例） コ、コモノヲ メシツレウズ（子、小者を召し連れうず） 私は、息子、または若者を引きつれて行こう。

ツルノコ（雲孫）

曾孫（ひまご）の子。玄孫。

ツタエ、ユル、エタ（伝へ、ゆる、へた）

教義、技芸などを伝授によつて残す、あるいは、教授する。

ツタエキタリ、ル、ツタ（伝へ来たり、る、つた）

子々孫々に受け継がれて来る、または、次々に教授して来た人々の伝承によつて今日に至る。

ツワリ（悪阻）

妊娠した女の病氣。

ツツミカウ（鼓講）

鼓と呼ばれる楽器の打ち方を習う弟子の集会。

テカガミ（手鑑）

昔の有名な人々のすぐれた書の写しをたくさん一緒に綴じ込んだもの。

テダマリ（手溜り）

（例） テダマリニ ナイ（手溜りにない）何か物を抱きかかえる際に、それが非常に小さかったり、細かったりして、手に感じられない。

テマリ（手毬）

手でついて遊ぶ毬。

テナライ（手習ひ）

文字の書き方を習うこと。

テナライジョ（手習所）

文字の書き方を習う学校。

テナレ、ルル、レタ（手慣れ、るる、れた）

物を日ごろ手に持ちなれる。

（例） コノ モノドモノ テナレ モッタ アソビド

ウグ（この者共の手慣れ持った遊び道具）

テツケ、クル、ケタ（手付け、くる、けた）

ある人を自分の手許で育てる、または、その人を手なづける、など。

タウブク（当腹）

現在の妻の子ども。

タウゴマ（唐独楽）

子どもが遊ぶのに使う独楽の一種。

タウネンゴ（当年子）

今年生まれの子ども。とうねご、と発音される。九州方言の語。

トリアゲ、グル、ゲタ（取り上げ、ぐる、げた）

（例） コヲ トリアグル（子を取り上げる）子供が生まれた際に、父親代わり、あるいは、母親代わりとしての

役を引き受けるしとして、その幼児を腕に抱き上げる。

トリアゲオヤ(取上親)

子どもが生まれた際に抱き上げる父親代わり、または、母親代わり。

トリソダテ、ツル、テタ(取り育て、つる、てた)

(例) コヲ トリソダツル(子を取り育てる) 子どもを抱いたり、そのほかあらゆる事をしながら、扶養し育てる。

トリツタエ、ユル、エタ(取り伝へ、ゆる、へた)

相伝によって子から孫へと続けられる、あるいは、伝わって来る。

トト(とと)

父。これは子どもの使う語である。

タウシン(痘疹)

天然痘の病氣。文書語。

タウザイゴ(当歳子)

生まれて間もない、一歳に満たない幼児。

トゥザン(登山)

ヤマニノボル(山に登る) 子どもが読み書きを習いに坊主の寺へ行くこと。そして普通は三年経った後に、その寺から親が子どもを引き取るが、その時のことを下山すると言う。すなわち、読み書きを習った寺から出る、という意

である。

また、子ども以外の誰でも、人が寺、すなわち寺院へ行くこと。

V字で始まる語

ワカギミ(若君)

まだ幼い公子、すなわち、大身の主君の子息。

ワカゴ(若御)

高貴な人の幼い男の子。

ワカイ(若い)

新しく生まれた年齢の少ない(もの)。

(例) ワカイ ヒト(若い人) 十五歳から二十五歳前後

までの若者。

ワカミヤ(若宮)

皇子、すなわち国王の子息で、国王の位を継ぐべき人。

ワカモノ(若者)

青年。

ワカシユ(若衆)

若者。また、これに或る語を添えると、或る人が悪い事に使う若者の意。

ワツバ(わっぱ)

奉公人の若者。

ワキアケノソデ (腋開けの袖)

九州地方では振袖と言う。幼児の着物で腋に開いた口のあ
る袖。

ワラベまたはワランベ (童)

子ども。

ワラワ (童)

子ども、少年。また、小娘の奉公人。

(例) ワラワニナルまたはオオワラワニナル (童にな
る、大童になる) 人が頭髮を解き放し、すなわち、結び
を解いて、首筋のところにはらばらに乱す。

ウブカゼ (産風邪)

生まれたての赤子に起こる風邪の病氣。

ウブカミ (産神)

または産の神とも言い、むしろの方がまさる。ゼンチョ
(異教徒) の出生の神で、いわば彼らの守護のアンジヨ (天
使) のようなもの。

ウブカミ (産髪)

赤子をもって生まれた髪の毛で、まだ短く刈ったり剃った
りしない前のもの。

ウブカサまたはウブセ (産瘡、うぶせ)

赤子をもって生まれる頭のできもの。

ウブコ (産児)

今生まれた赤子。

ウブコエ (産声)

赤子が生まれる時に泣く最初の声。

ウブゲ (産毛)

二、三歳までの幼児に生えている、短くて柔らかい毛。

ウブギ (産着)

生まれるとすぐ赤子を包みくるむむつき。

ウブメ (産女)

出産で死んだ女の亡霊で、後まで残り留まっていると、ゼ
ンチョ (異教徒) が想像しているもの。

ウブヤ (産屋)

出生の家、すなわち、その中で人が生まれるために造られ
る家。

ウブユ (産湯)

生まれるとすぐ赤子を洗うのに使う湯。

ウイカムリ (初冠)

公家の若い息子が、その名前を変え、初めてとんがり帽子
〔冠〕を頭にかぶること。

ウイダチ (初立ち)

赤子が初めて足で立ったり、歩き始めたりすること。

ウイゴまたはウイノコ (初子、初の子)

初めて生まれる子ども。